

行政報告

○議長（和 正巳）**日程第4** 「行政報告」を行います。管理者

○管理者（平安正盛）こんにちは。先程議長からお話がありました。来る12月20日をもって任期満了という事で、退任をいたすことになりました。永い間、この組合の議員はいろいろ変わっていらっしゃいますが、20年間大変いろいろお世話になりました。あわせて職員等にもお世話になりました。改めてお礼を申し上げたいと思います。懇親会もありますので、そこで一献を酌み交わしながら思い出話をしつつ、これからあと当組合のこといろいろお話する機会もあるのかと思いますが、その際にいたしたいと思っていますので、時間の都合もありますので宜しくお願い申し上げます。行政報告ですが、閉会中の間の行政報告については、消防長をもって報告をさせたいと思いますのでご了承下さい。

○議長（和 正巳）消防長

○消防長（池田哲勇）皆さんこんにちは。行政報告について、8月24日第1回臨時議会後の行政報告を申し上げます。

- ・9月1日 防災の日に知名町・和泊町の防災の日の9日に関係機関及び住民参加による防災訓練が実施されました。今回は県警ヘリによる上空からの避難誘導、広報、そして救助訓練が実施され、また関係機関との連絡強化に努めたところです。
- ・9月17日 職員の退職に伴う補充として、知名町枠で消防職員採用試験が2日間行われた結果、与論町出身の「原田涼平君」が採用となりました。
- ・9月28日 第80期初任科卒業式が県消防学校において半年間の厳しい研修を終え、当消防本部から5名が入校し、卒業式にあたり訓練の成果を披露するなどの、きびきびとした活動内容であり今後の活動が期待できるとともに、現在、隔日勤務として頑張っております。
- ・10月5日 秋季県消防長会総会が、志布志市で開催され平成30年度志布志市を中心に緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練が開催予定となっております。県下20消防本部緊急消防援助隊登録の消防本部からの参加要請があり、当消防本部からは救急隊を派遣する計画でございます。
- ・10月19日 定例監査を受け、監査委員からの講評の中で、会計伝票の未清算について、構成町が負担する負担金については、検討が必要ではないかという事と、更に公会計に伴う固定資産台帳の適切な処理を行うよう指導がありました。これに対して早急な対応と対策をして参りたいと思います。
- ・10月31日 与論町において、無許可で営業しております旅館業に対し、徳之島保健所と合同の立ち入り検査を行い消防設備、消防計画等の提出を求め指導等を行ったところです。
- ・11月16日から18日 天皇皇后両陛下御来島に伴い、天皇皇后両陛下がお立ち寄りになるすべての施設、そして危険物施設の立ち入り検査を行いました。また宿泊施設には職員を泊まり込みで派遣して、消防防火警戒を行いました。
- ・11月26日 県地域防災リーダー養成講座が与論町で開催され、分遣所から職員を派遣して、地域リーダーである公民館館長や消防団員を対象に防災意識の高揚を図る為研修を行いました。
- ・12月3日 与論町において役場、警察、消防、関係事業所及び住民が参加しまして、合同の防災訓練を行い、防災意識の高揚と関係機関との連絡連携の強化に努めたところでございます。
- ・12月11日・12日 平成26年度に補助整備を行った消防救急デジタル無線整備事業の会計検査院による実施検査が分遣所そして本署で行われ、指摘事項については今作成をして確認をしているところです。
- ・12月15日 本日第2回定例議会となっております。次に消防、救急出動関係についてご報告申し上げます。まず火災発生状況ですが、これは1月から11月末までの件数です。和泊町4件、知名町6件、与論町5件合計15件です。平成28年中の火災発生件数12件ですので、既に3件増となっております。救急出場状況1月から11月末までの件数になります。和泊町242件、知名町346件、与論町194件合計782件となっております。最後に平成29年度の介護認定の一覧になりますが、これは4月から11月末までの件数であります。和泊町392件、知名町355件、与論町238件、沖永良部事務所県の方から9件合計994件の認定事務を行っております。以上で行政報告を終わります。

○議長（和 正巳）これで行政報告を終わります。

一般質問

- 議長（和 正巳）**日程第5** 一般質問を行います。発言を許します。「8番沖野一雄君」
- 議員（沖野一雄）まず質問を申し上げます前に、沖永良部島と与論島に歴史上初めて天皇皇后両陛下が御来島された、先月の行幸啓の一大イベントが無事に成功を収めたことに対しまして共にお喜び申し上げ、合わせて執行部関係者のご苦勞に深い感謝を申し上げたいと思います。また、今月の20日付でご勇退される平安正盛知名町長が、これまでの5期20年の永きに渡りまして、管理者あるいは副管理者として当組合の発展に誠心誠意ご尽力頂きましたことに対し、心からご慰勞と感謝を申し上げますと共に、今後の豊かなご隠居生活と、益々のご健勝を心からお祈りいたしたいと思っております。ありがとうございました。
- 通告させて頂きましたとおり質問をさせていただきます。質問事項といたしまして、緊急時における自動音声無線放送の改善について質問をさせていただきます。質問の要旨ですけれども、平成27年3月から運用を開始した消防救急デジタル無線及び通信指令設備による緊急時の屋内外放送については、コンピューターによる自動音声になっている、そのため与論町内の火災発生時の場所の伝え方は、集落名あるいは字名での伝達であるために、消防団員を含め聴く側にとって場所の特定に時間的ロスが生じ改善すべきと考えるが、管理者はどう認識し今後の具体的対策を講じていくのかということでございます。宜しく申し上げます。
- 議長（和 正巳）管理者
- 管理者（平安正盛）ただ今の「沖野一雄」議員の一般質問にお答えを申し上げます。平成25年度の無線システム普及支援事業による消防本部の消防救急デジタル無線及び通信指令設備工事により、本署及び分遣所の別々になっておりました119番回線を本署に一元化することにより、警防力の確保と位置情報システムによる、火災現場の早期確認及び消防団員への通知を職員1名で対応できるように自動化することを目的に整備を致したところです。議員ご指摘のとおり機器による自動音声は聞きづらいという事で、これは与論だけではなく沖永良部でも同じような意見はこれまで聞いたことがあります。本署においても住民から聞きづらいというご指摘はありましたが、改善するには多額の費用がかかることからメーカーに再度音声の調整をして頂き、また消防団員への説明と各講習会等での説明を行い、住民への理解を求めてきたところです。現在与論分遣所においては、火災発生による消防団員への通知は防災無線以外に携帯電話のラインを利用して火災現場の通知を行っております。今後は、インターネット及びその他のシステムで情報提供ができるように検討して参りたいと思っております。
- 議長（和 正巳）沖野君
- 議員（沖野一雄）ただ今の説明によりますと、音声聞きづらいというのはしょっちゅう放送を聞いている訳でなくて、イメージとしてはたとえばJアラートの時の自動放送で来たときにあまりにもゆっくりしすぎて、聞きづらいというのがあるんですけれども、そういった感じのイメージで聞こえるんですけれども放送する時の話し方のスピードが遅すぎて、もう少し早く言ってくれば分かるという感じはするんですけれども、管理者の説明によりますと改善するのは費用がかなり高くなりますという事で、難しいというお話ですけれどもそこは財政的な理由が伴うのであれば、しょうがないかなという事で出来るだけお金をかけない方法で改善できるのであれば努力して頂きたいと思っております。消防団員への通知については携帯ラインを使って携帯スマホのラインで一斉通知がされるという事で、消防団についてはカバーできていると思っておりますけれども、例えば24時間ずっと携帯を持っていけばいいんですが、例えばお風呂やトイレに入ったり、うっかり電源を入れるのを忘れてしまう事があると思っておりますので、そういった時に屋内外の放送によって第一報を取るといって場所が特定できないと素早くそこに行けないという事も生じてくるかと思っております。また消防団員だけでなく町民の方も我が家の近くとか親戚の近くとかとなった時にどうしても場所が特定できないことには不安がありますので、その場所の特定ができるように例えば目標物、公共施設であったりもちろん民間施設であっても誰もが知っているなになに商店とかそんな所のポイントポイントでしっかり空白地帯ができないようにしっかりと機械にインプットしていくのが重要だと思っておりますけれども、そういった対策は多分やっていらっしゃると思いますが、どの程度今進んでいるのか、最終的に空白地帯ができないようにしっかりと目標地点というか、目標物をコンピューターの中に入れてそれが放送の中に示されるというのが理想的なんですけれども、その辺り具体的なところ説明をお願いします。
- 議長（和 正巳）署長
- 署長（先間隆夫）今のご質問にお答えします。与論と沖永良部の方に目標物のポイントはうってあ

ります。ただ先程ご指摘のように官公庁の施設とか自治公民館とかそういった建物がある所はいいんですけども、畑の真ん中で何にもない目標物をもっていないというそういった所の場所選定といったことが、非常にこちらとしても戸惑っているのが実際のところなんです。それで方言でいきますと、その地域地域による地名のなになに場所というのがありますけれども、そこまで入れてしまうとこちらの目標物の場所の数が多くなってしまい、パンクしてしまうという状態になり他の地区には意味不明な言葉になってしまって、統一性のある目標物という事で設定させて運用を図っているところです。先程ありましたけれども防災無線の放送のスピードに関しても知名町、和泊町、与論町の3町とも防災無線で行っています。簡単に言いますと、知名町はゆっくり話さないで、私の住んでいる下平川校区とかは、ハウリングと言うか、あっちもこっちも聞こえてしまって音声がよく理解できないという状態になってしまいます。与論町、和泊町の方は少し早くてもいいんですけども、どっちに合わすかという事でこちら最初の設定の段階でスピードをこれぐらいでいいんじゃないかということでスピードはそのように設定させて頂いたと聞いております。

○議長（和 正巳） 沖野君

○議員（沖野一雄） 概ね理解できました。私が気になるのは事前にしっかり誰もが知っている目標物、消防団が出勤したり町民が場所はどこだろうと特定したい時に場所の特定について、機械に入力をする時に沖永良部しか知らない職員の方がもし入力をした場合にどうしても与論では誰もが知っているんだけど、沖永良部のインプットされる作業に当たる方が、与論の情報をよく分からなかったりすると、どうしてもそこに食い違いが出てくる訳で機械にインプットされる目標物というのが、与論でよく知られている所という前提でもっていかないと、例えば分遣所職員でも役場総務課でもいいんですけども、しっかり確認をしながらインプット作業をして頂きたいという事と、どうしても気になるのは畑の真ん中とかなると場所の特定が難しい所もありますけれども、公共施設が一番基準になるかと思うけれども、公共施設は問題ないけれども、プライバシーとか何とかというのが、今うるさくてどこどこ宅というのは、なかなかいかないでしょうから、せめてなになに商店とか、海の浜の名前とか誰でも知っている所を指示して、例えばその南側およそ300メートル地点ですと言えばイメージがわくと思います。私が心配しているのは、空白地帯が出ないようにしっかり誰もが知っている所を特定して、そこから西側に何メートルとか南東側に150メートルとかという感じで放送すればいいのかと、素人考えですけどもその辺りしっかり空白地帯が出ないようにしっかり今後も努力を続けて頂きたいと思います。最後に管理者のリーダーシップを確認しまして私の質問を終わります。宜しくお願い致します。

○議長（和 正巳） 管理者

○管理者（平安正盛） ご指摘の件については、先程も署長からも現状と課題等についてお答えしているとおりでございます。色々検討し、結論を出すにあたっては、色々難しい問題等もあるかと思えますけれども、そこはしっかりと担当に指示してその実現できるかは別として、財源等の問題もありますのでそこはよく検討していくように指示をしていきたいと思えます。

○議長（和 正巳） これで「沖野一雄君」の「一般質問」を終わります。

次に「7番外山利章君」の発言を許します。

○議員（外山利章） 7番「外山利章」が次の点について質問いたします。災害発生時における情報伝達システムについてです。火災発生時に迅速かつ的確な情報伝達を行うため消防無線デジタル化に伴い可能となった火災情報メールの配信は行えないか、またその配信と連動し火災位置、水利情報、出勤状況が伝達できる火災情報アプリの導入はできないのかについてお尋ねいたします。

○議長（和 正巳） 管理者

○管理者（平安正盛） ただ今の「外山利章」議員の一般質問にお答え申し上げます。消防無線デジタル化による火災情報メールの送信ができないのかというご質問ですが、当初の消防無線デジタル化の整備の中で指令台から消防団員への携帯電話への火災警報を提供できないのかを検討しましたが、現在の指令台からの情報提供は困難であるというのをメーカーからの回答であります。現在携帯電話でのラインのグループ内での情報共有が有効であるかというのが言われますが、今後もインターネットを活用した情報提供やもしくは、その他のシステムで消防防災科学センターが提供しております災害応急活動支援システムなどが活用できないのかどうかを検討して参りたいと思っております。以上です。

○議長（和 正巳） 外山君

○議員（外山利章） 管理者の方からデジタル火災警報発信については困難であるという回答がありましたけれども、このデジタル無線が配備された当初1件だけ私も消防団ですので、火災情報に関し

て色々の情報を得るわけなんですけれども、1件火災情報の場所と原野火災についての情報メールが伝達されてきたことがあります、これはその情報一斉配信には当たらないでしょうか。

○議長（和 正巳）消防署長

○署長（先間隆夫）そのメールは、本署の場合の火災は本署の無線を聞いて与論分遣所が与論から配信をするという事で、与論の時は本署の職員が与論の方に応援要請をメール配信するというシステムを現在とっております。一時与論の方のメール発信のパソコンの調子が悪かったので、10月末から発信されなかった期間もありました。以上です。

○議長（和 正巳）外山君

○議員（外山利章）分かりました。与論の職員が入力をして、それぞれの分団に送ったという形ですね。この質問をさせて頂いたのはせっかくデジタル無線化されたのであれば、その効果を有効に活用しなければいけないと思いますけれども、先程、沖野議員からもありましたように、音声では非常に聞きにくいと逆に今までの人の声の方がいいんじゃないかと、消防団員からもそういう声が出ております。デジタル無線化されたのであれば、この火災情報メールという形で場所の特定であったり文字情報で消防団員の手に届く形になりますので、これ程的確で正確な情報はない訳ですので、その情報を元に今日皆様のお手元に資料を配らせて頂きました。この情報メール発信が前提で無ければ使えないシステムでありますけれども、少し紹介させて頂きます。このアプリを使えば火災位置の情報であったり、また水利の情報もありますので、それと出動順位の確認という形もそのアプリひとつで出来るようになっております。水利については火災が起きた時にどこに水利があるかというのは、機関員の一番大事な情報でありますし、出動情報というのも現在、地元にいる消防団員が非常に少なくなっています。あり方も多様化していますのでその中で2名から3名基本3名集合しないと車を出せないということになっていきますけれども、こういうアプリを使って今こちらに向かっていますという情報があれば2名であっても出動できる形になる非常に便利なアプリだと思っております。先程困難だという理由が財政的なものなのか、それともシステムのものなのかはあるかと思っておりますけれども、ぜひこういう形で地域の防災力を上げるためにも、アプリの活用というのも見据えるために配信システムの構築を再度検討して頂きたいというのと、その検討している間にも火災というのは発生しますので、先程署長からもありました与論・沖永良部両方それぞれメールを配信するシステムをしっかりと構築して情報伝達を行えられるようにして頂けるように要請します。回答までいただけますか。

○議長（和 正巳）消防署長

○署長（先間隆夫）今のところ、こちらの方もラインの方が有効ではないかと、ラインの取扱いを署員数名で実施をしているところです。ただ有効なんですラインは情報が外に漏れる、要するに電話帳が外に漏れてしまうという事がありまして、うちの中心になったラインを救急車の病院連絡用の救急車の番号でラインを構成して署員と作ったんですが、そこでドクターの電話番号とかが入っているので、それで運用するとそういった情報が外に漏れるといけませんので、署員でやって見れば消防団員にも移行していこうかなと考えています。場所についてはラインで先に先着した消防隊、救急隊なりが場所の特定でポイントを押すと、場所が瞬時にラインの構成されている所に地図で配信されます。それと同じような方法で署でもラインに入っている署員が地図操作してポイントをうってしまえば場所が飛ぶという事で、非常に有効なソフトだと思っております。ただセキュリティーの問題がありますのでラインの方は検討中です。皆さんのお手元に配った「め組」というこれも同じような外山議員が調べてもらったアプリなんですけれども、これもフリーウェアで無料です。ただこれは登録をすると誰でも使えるという状態になりまして、うちが認定した消防団だけに使える様なシステムを導入すると、それに月額使用料がかかってしまい、ただ使う分には無料ですが、入るライン構成組織を作って外に情報が漏れないような形をとるとお金がかかるという事でこれも検討中です。先程の水利に関しましても、水利情報も入ります。それも有料化という事で調べたところ大体知名・与論・消防団と職員を全部入れると大体300から400名ぐらいの規模になります。すると100万から200万円ぐらい必要じゃないかという試算のデータを頂いています。今のところラインの安全な方法でシステムが出来ればその方が運用でいけるのではないかと思いますのでそれで進めていきたいと今のところ考えています。

○議長（和 正巳）これで「外山利章君」の一般質問を終わります。